

研究課題名	出生前母体ステロイド投与が出生後の Late preterm 児に与える影響についての後ろ向き観察研究
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	赤ちゃんの出生が在胎 34 週より早く見込まれる場合、お母さんにステロイド投与することは赤ちゃんの呼吸や消化吸収などの早産に関する合併症を減らすことができるために実施が推奨されています。しかし在胎 34 週 0 日から 36 週 6 日までの Late preterm での出生が見込まれる場合にも、適切な対象者には有効性があると感じており、実際に同様の文献報告がなされています。 当院において、出産前のお母さんにステロイド投与することは Late preterm 児にとって有効かつ安全であるかを調べる目的で、当院の診療録を調べさせていただきます。
研究対象者	2014 年～2025 年までの間に当院で在胎 34 週 0 日から在胎 36 週 6 日までの間に出生した Late preterm 児とその母体。
利用又は提供する試料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：（お子さま）在胎週数、出生体重、性別、出生形態、Apgar スコア、臍帯動脈血ガス結果、気管挿管の有無と出生から気管挿管までの期間、気管挿管から抜管までの期間、非侵襲的陽圧換気の有無、生後 24 時間以内の血糖値、退院日齢 4 歳までの小児科医による外来診療の結果、新版 K 式発達検査結果 （母体）年齢、妊娠回数、出産回数、出生形態、早産の原因、ステロイド投与の有無、ステロイド投与から出生までの期間、胎盤病理結果、産科的合併症、破水から出生までの期間
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2027 年 3 月 3 1 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られた結果を診療録から取得します。
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院のみで行います
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は機関の名称	ベルランド総合病院 小児科 氏名：熊谷 健
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはありません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 小児科 氏名：熊谷 健 メールアドレス：ta_kumagai@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）